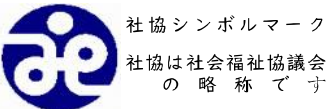


発行/中野島地区社会福祉協議会
川崎市多摩区登戸1891
第3井出ビル3階
福祉パル多摩内
地域課:電話:935-5500
FAX:911-8119
発行人/ 田村 弘志
編集人/ 総務部



社協シンボルマーク
社協は社会福祉協議会の略称です



中野島地区社協のテーマ

この地域
誰もが暮らしやすい
中野島・布田

この広報紙は、皆様からの
会費で作られています

2024.7.15 No.47 (年2回発行)

戦時中の中野島 ②

中野島のこんな事知っていますか
田村 弘志

戦況は、じわじわと子供たちの生活にも影響してきました。遊びは、戦争ごっこをしたり学校の授業では騎馬戦や棒倒しをしたりはするようになってきました。上級生は、元氣よく行進の練習をしていました。
軍隊に召集された青年を送る出征風景を、よく見るようになりまし。日の丸の旗を先頭に、日本国旗をたすきにした青年が続く、稲荷神社までの行進に子供たちもついて行きました。地域の退職軍人や、町会の責任者による挨拶や、万歳三唱があり、賑やかに見送りをしました。しかし、そのうちには家族の見送りのみになってしまいました。唯一の交通手段である電車の利用者もあまりなく、本数も減っていきました。小田急線の線路脇にあった住宅は、国の命令で撤去されました。多分、焼夷弾による火災の影響を避けるためだったと思います。

昭和20年3月10日に、B-29爆撃機の大編成によって東京大空襲がありました。その時、私は中耳炎をこじらせて、下北沢の川島耳鼻科病院で手術を受けて入院中でした。すぐ近くの小田急線線路脇にある防空壕で、前方の代々木方面が真っ赤に燃えている様子を見ました。5月になると、中野島、登戸、生田にも戦闘機の襲撃があり、焼夷弾が落とされるようになり、焼かれた家もあり死者も出ました。何故こんなところに頻りに攻撃機が来たかということ、生田の三田にある現在の明治大学に「陸軍登戸研究所」があったからでしょう。そこには、従業員が千名位いたようです。幹部を除いて、地元の人たちが多く採用されていました。軍の秘密施設であったため不明な点が多く、現在も調査中ですが、最大の研究、製作は風船爆弾で、日本軍期待の秘密兵器製作でした。千葉県の九十九里海岸から茨城県の海岸にかけての辺りから、アメリカ本土に向けて打ち上げられたそうです。もう一つは、孫文の透かし入り偽札製造でした。その他、缶詰め爆弾や細菌の研究もしていたと元従業員が語っています。

稲田中野島民生委員児童委員協議会だより

稲田中野島民生委員児童委員協議会(民児協)本年度の総会が4月30日に開催されました。席上、令和5年度の事業報告、決算報告、令和6年度の事業計画、予算、また役員体制等の議案が審議され、了承されました。この一年、コロナ禍が一段落し、民児協の諸活動が再開しました。新任委員の皆さんも生き生きと活発に活動してくださっており、うれしい限りです。民児協の運営にあたっては、全員参加型を心がけています。今年度はさらに、委員の皆さんが会の運営にこれまで以上に積極的に参画していただけるように配慮していきたいと考えています。その一環として、新たに研修委員会を設けることとしました。民生委員児童委員信条に「人格と識見の向上に努めます」とありますが、民生委員として備えるべき知見はたくさんあると思っています。そうした課題に対応するために研修委員会にさまざまな研修を企画していただき、私たちの資質向上に取り組んでいきたいと考えています。研修委員会のメンバー以外の方からの声もどんどん寄せていただきたいと思っています。また、今年度、特に力を入れたいこととして、中野島・布田地域の町会をはじめとした関係諸機関との連携の強化を図っていききたいと思っています。地域の課題はたくさんあります。それぞれの機関が対応されていますが、どの団体がどのような活動をされているのかわかりづらいのが実情ではないでしょうか。そこで地域にどういった団体・組織があるのかを掌握するところから始め、それらの機関と情報を共有できるような取り組みをしていきたいと考えています。

まず最初に、地域に最も密接にかかわりをもつ町会と情報を共有、交換する機会をもつことから始める方向で話合っています。そこから始めて、地域包括支援センター、障がい者施設、学校、幼稚園・保育園、子ども食堂、ヤングケアラ、対策等の諸関係団体との文流を徐々に図っていききたいと考えています。民児協は、これからも地域の皆さんにとって住みやすい町づくりに貢献していきたいと念願しています。



第19回定期総会が開催されました

令和6年度 中野島地区社会福祉協議会総会が5月13日(月)中野島会館で開催されました。田村会長からは「今年元旦の能登半島地震から得た教訓で、常日頃からの防災についての話し合い、縦・横のつながり、隣近所との付き合いを大事に心掛けていざというときに役にたてよう」と挨拶がありました。また来賓の多摩区社協福祉協議会事務局内田様、中野島地区3校の学校を代表いたしまして中野島小学校今校長先生よりお祝いのご挨拶を頂きました。

来賓の方が紹介され、つづいて小川書記より定足数確認、理事66名のうち参加者60名(委任状・19名含む)は過半数に達しましたので総会は成立いたしました。

議長に福祉部部长大竹氏・会食会委員長鹿山氏をお願い総会が始まりました。

令和5年度事業報告及び決算報告、会計監査報告があり、それぞれ承認されました。次に新役員発表(別掲)令和6年度事業計画(案)・予算(案)が提案され審議の結果賛成多数で承認されました。

認されました。これでいよいよ令和6年度の活動が始まります。最後に新役員の紹介があり閉会の言葉を佐藤副会長にいただき総会は終了致しました。総会終了後、来賓の方々との懇親会により、交流を深める事ができました。



中野島地区社会福祉協議会 新役員紹介

今期の新役員です、令和6年度・7年度の2年間お世話になります

- 会長 田村 弘志 (留任)
- 副会長 奥沢 邦雄 (留任)
- 田村 富男 (留任)
- 一柳 宗義 (留任)
- 佐藤 ミチ子 (新任)
- 会計 須崎 摩佐子 (留任)
- 小宮山 眞一 (新任)
- 書記 小川 安子 (留任)
- 鹿山 幸恵 (留任)
- 高田 祐市 (留任)
- 高橋 良行 (新任)



新役員の皆さんです

中野島北口 コガワクリニック

当院が心掛けているのは、患者さんの立場に立って診療させていただくことです。症状を的確に理解し、治療方針等もご納得いただけるまでご説明いたします。当院では痛みが少ない青カメラ検査を実施しております。地域の皆様のかかりつけ医として、お気軽にご相談ください。

診療科目 内科・消化器内科・漢方・糖尿病
診療予約 あり
所在地 川崎市多摩区中野島6-26-2
F&F/ハイム2F

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:30	○	○	○	○	○	○	○
15:30-19:00	○	○	○	○	○	○	○

●●● 9:00~13:00

【休診日】日曜、祝日 044-934-6872 モバイルサイト



第16回多摩区社会福祉大会開催

令和6年3月5日(火)多摩市民館大ホールにおいて、第16回多摩区社会福祉大会が開催されました。

この大会は社会福祉に関する啓発活動を広く行うとともに、多年にわたり地域福祉に貢献された個人及び団体に感謝の意を表することを目的として開催されました。

第1部記念式典では主催者挨拶に続いて感謝状贈呈があり、社会福祉事業貢献者(5名)、寄付金品寄贈者・団体(1名・1団体)でした。中野島地区社会福祉協議会からは羽根田氏が贈呈されました。

羽根田氏は「平成29年に中野島地区社会福祉協議会理事に就任。福祉部に所属し活動を始めた。平成31年にミニデイケア委員会たんぼの副委員長、令和2年からは同委員長を務め、地域の高齢者交流会を実施している。コロナ禍において活動が制限された時期に委員会を主導し活動の継続に寄与した。令和4年より多摩区社会福祉協議会福祉教育推進委員会に所属。20年以上のブランクを経たのちに民生委員児童委員に復帰し、現在は地域住民の相談援助にも尽力している。地域住民からの信頼も厚く、その業績は多大である」とありました。

第2部記念映画、吉永小百合・天海祐希出演の『最高の人生の見つけ方』が上映されました。家庭のために生きてきた幸枝、社会のために生きてきたマ子。余命宣告を受けた二人が「死ぬまでにやりたいことリスト」を実行するという内容です。

自分に“残された人生”をどう生きて行くか考えさせられた映画でした。

「令和6年能登半島地震」への特別災害義援金を石川県中能登町社会福祉協議会へ送付しました。



謹啓 貴協議会におかれましては甚だ御清業のこととお慶び申し上げます。平素は、社会福祉事業の推進に深い御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。此の度は心温まる御寄附を賜わり誠にありがとうございました。寄付金については、有意義に活用させていただきます。ここに衷心より厚くお礼申し上げます。貴協議会の甚だの御発展をお祈り申し上げます。御挨拶といたします。

令和6年3月19日
中能登町社会福祉協議会 杉本 幸藏
中野島地区社会福祉協議会 会長 田村 弘志 様

BAR BARの聞きかじり② 塚本 健治

南武鉄道のお話し

南武鉄道は、意外に歴史があります。昔は、多摩川の砂利を京浜工業地帯に運ぶ(川崎町～稲城村)事を目的に、大正9年に鉄道敷設免許が申請され多摩川砂利鉄道として運行されました。昭和2年川崎～登戸間が開通し、2年後の昭和4年には立川まで開通しました。皆さんは、昔の南武線は茶色の印象があると思いますが、電化された当時は緑色の(モハ100形)が2両でのんびり走っていました。中野島駅は、当初三谷の踏切(現在より登戸寄りにある踏切)にあり、昭和22年に今の場所に移りました。当時は、キート製作所(現在は山梨に移った、株式会社キート)が今の新多摩川ハйм敷地にあり「キートが駅を移した」とも言われています。近くには競馬、競艇場がありキャンブル列車とも言われていました。

昭和30年代になると、高度経済成長とともに車両も増え、今の6両編成になりました。車両も、中央線・山手線のおさがりであり、床は油臭い木で柱が立っており、床に座ると服が汚れると母親に怒られたものです。貨物列車も沢山走っていて、何かの理由で中野島駅に茶色の機関車(EF15)が緊急停車していた時、フロントのデッキ部分に乗り降り駅員に怒られた記憶があります。各駅には上場があり、サワリマンを支えた南武線、今では最新の車両になり、色々な歴史を駆け抜けた南武線、思い出深い電車です。



暮らしやすい地域づくりへの一言

中野島町会 会長 佐藤 ミチ子

中野島駅前や交番の周辺、そして駅からスーパーまでの歩道には、四季折々の花々が咲いています。商店会や花クラブ、ガーデニングクラブの皆さんにより行き届いたお手入れがなされていて、通行する皆さんの心を癒してくれています。町の玄関口とも言える通りの光景、町の環境美化のため活動されているボランティアの皆さん、ありがとうございます。

一方、ゴミ置場への不法投棄が無くなりません。多くの苦情が町会にきています。本当に残念です。大概は、目立たない夜中にもその置場に運んでくるようなのです。「自分さえ良ければ・・・」と、人の迷惑を顧みない行為、この地に愛着があっても住んでいる人は、こんなことをするでしょうか。「暮らしやすい地域づくりについて」今回改めて考える機会をいただいた気がします。「子どもたちが元気にのびのびと成長でき、防犯・防災面でも安心して暮らせるまち」は、誰もが願うことです。ご近所とのつながりを通して、町会費等の集金や回覧板を回し、朝ごみを出しに行く中で挨拶を交わし、交流が出来ることで、いざという時に助け合える関係が生まれるかと思えます。また、高齢になって、地域でふれあう機会や居場所があれば、孤立を防ぐことにもなり、「楽しく元気に日々が送れるようになるのでは」、などなど理想の地域像が浮かびます。

地域には、町会のほかにも様々な組織や団体が活動しています。皆さんが連携し協力し合うことによって、より一層のつながりが出来、支え合いの絆が、地域ぐるみで育っていくことを願い、実現に向けて呼びかけをしていきたいと考えます。また、町会でも様々な地域課題の解決に取り組み、多世代の人々が「この地域に住んで良かった」と思えるようなまちづくりを目指して活動していきたいと思えます。

住民の皆様からのご協力は、大きな力です。今後とも、よろしくごお願い申し上げます。

令和6年度事業計画

- 全体目標
- 1 「社会福祉のつどい」の実施
 - 2 理事研修会の実施
 - 3 社会を明るくする運動
 - 4 地区内各団体行事・活動への協力
 - 5 賛助会員増強運動の推進
 - 6 ボランティア活動の促進
 - 7 共同募金運動・年末助け合い運動への協力
 - 8 老人福祉週間行事に対する援助・協力
 - 9 「中野島老人いこいの家」運営への協力
 - 10 子育てサロン「バンビ」への支援
 - 11 災害時対策の実施
- 総務部(予算 150,000 円)
- 1 広報紙の発行
 - 2 理事研修会の計画・実施
 - 3 社会を明るくする運動事業計画・実施
- 福祉部(予算 180,000 円)
- 1 高齢者車椅子疑似体験活動補助
 - 2 中野島中学校、福祉支援活動
 - 3 心のいやしコンサート実施
 - 4 年賀状友愛訪問事業の実施
 - 5 ボランティア活動団体との交流・研修

- 青少年幼児部 (予算 120,000 円)
- 1 子供教育のための施設見学会を実施
 - 2 親と子のふれあい活動・演芸会等の実施
 - 3 母親クラブの育成・子育て支援の実施
- 会食委員会 (予算 160,000 円)
- 1 老人会会活動の実施(年6回)
 - 2 研修会の実施
- ミニデイケア委員会 ～たんぼぼ～ (予算 105,000 円)
- 1 ミニデイサービス実施
毎月第4金曜日 10時から午後2時まで
年 11回開催します
- 老人いこいの家運営委員会(予算 38,000 円)
中野島老人いこいの家運営への協力・管理
- 社会を明るくする運動 (予算 90,000 円)
中野島地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会
保護司会・中野島中学校・中野島小学校・下布田小学校・及び各学校PTA協議会にて構成される。
*「社会を明るくする運動推進会議」を開催
* 広報・啓発活動を実施します

令和5年度理事視察研修会 川崎市役所新庁舎視察してきました

2月8日、令和5年6月に完成した川崎市役所本庁舎を視察しました。市制100周年を迎え、新たな1000年を踏み出す川崎市の将来を考える機会となりました。

9時に中野島を出発し、予定通り10時から市役所本庁舎の見学が始まりました。当初、新庁舎視察は、議場・防災司令室・展望室・復元棟の旧本庁舎、旧市長室を見学する予定でしたが、が、能登半島地震の関係で防災指令室の視察は、中止となりました。

最初に正面入口です。外観は昭和13年の旧本庁舎のデザインを再現したそうです。上部に目を移すと縦のラインが特徴的なシャープな外観の2.5階建て建物でした。まず、3階まで吹き抜けとなっているアトリウムに入り込みました。大きなガラス窓を利用し、日差しが入り込んだ明るく広々とした開放的な空間でした。堅苦しさは無く、誰でも気軽に入りやすいと思えました。受付を通過し、2.3階の市議会議場を見学するためにエレベーターで2.4階に移動しました。2.3階の会議場内は吹き抜けになっていて、後方の一部2.4階が傍聴席になっています。その傍聴席から拝見した会議場は、間接照明を利用して以前より明るく、木のぬくもりを感じる空間でした。また両側の壁は、一部ガラスを使用していて、外廊下からも中の様子が見えるようになっていました。真新しい座席に座り、「キッズレポーターとおよん」によるスライドで傍聴の仕方や議会の役目を拝見しました。どの世代の方が見学にいられても分かりやすいと思います。その後、2.5階の展望ロビー・スカイデッキに移動し、川崎市内や東京・

横浜方面の景色を楽しみました。当日は、お天気が良く眺望は最高でした。最後に、低層の復元棟2階に移動し旧市長室を見学しました。ここは、歴代市長の写真や昭和13年当時使用していた机・椅子などが展示されています。部屋の壁紙や赤いカーテンなども再現されていて、レトロな雰囲気の中、当時の重厚な市長室を感じることが出来ました。

7月には、分散している事務所の移転が終了するそうです。今後、様々な行政サービスが効率よく行われることを期待しています。本庁舎展望フロアや展示スペースはどなたでも見学可能ということですのでぜひ、一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

